

# 会報

No. 45

平成10('98)年3月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市下京区西七条八幡町31  
京都府立図書館仮施設内  
TEL (075)321-0200

## 図書館への思い

京都府立総合資料館館長

中山禎輝

分に苦笑させられる。最近では仕事柄もあってより一層親しみを感じるようになっているのだが、そのような思いを交錯させながら、図書館一般について日頃考えていることを一言書かせてほしい。



当資料館では故吉田光邦先生の蔵書である吉田文庫を利用して、月に一度所在地の地名半木町に因んで半木(はんばん)会が催されている。

この企画に関わられた先生方も同じような思いなのだが、本は存在するだけでもその効用を果たすかもしれないとしても、それについて語れる人がいればもっと本が親しいものになるのではないか。

高校に入学したての頃から通いはじめた大阪中之島の府立図書館は、風格のある建物と備えられた万巻の書は云うに及ばず、入館を待つ長い行列といい、高校生を圧倒するに十分な存在であった。

志の高さは立派だったが、その実態はやっと入れた館内で友人を捜してはウロウロ、そして他愛のない話にふけつて周囲の人に叱られるか、

食堂で食べて飲んで新聞雑誌を読みふけつて、また翌日というようなものだった。それでも家での言訳が楽だし、学校のそれは違い、大人の仲間入りをしたような錯覚はたまらない魅力だった。

残念ながら図書館のおかげだといえる程の人生ではなかつたが、それでも無性に懐しく、立ち寄つてみたい存在はある。

現に中之島界隈を通りかかると、自然に図書館に足を近づけている自



半半会の風景

問合先：075-723-4833(総合資料館内)

最後に図書館へは極力歩いて行かれることをおすすめする。

アリストテレスも、ピタゴラスも、ソクラテスも、プラトンも、車に縁はなかつた。地面に接したつま先から血が頭の先まで昇った時に、アイデアが浮かんだはずだと確信しているのだが、いかがだろうか。

一人はみな  
己を賢と  
思いきや  
図書館の  
前に立つ  
私は一

長したことか。わくわくするような図書館、そんな図書館も大事だと思う。いかがか。

相互協力実務担当者会議

二月二十六日に、府立総合資料館において開催され、尼崎市立中央図書館長藤原英一郎氏の講演「阪神地区公共図書館の相互協力について」と、それに続き実務担当者による会議を行いました。

向日市立図書館

会議は、尼崎市立中央図書館長藤原英一郎氏の阪神地域七市一町間で実施されている、相互協力と相互利用についての講演で始まった。

相互協力については、府内図書館でも活用されているが、相互利用（広域貸出し）となると、府内では南部四町間で端緒についたばかりで

阪神地域における、相互利用の制度は、九一年四月実施であり、近畿における一番実績のある運用と思われる。制度の概要是、七市一町の住民なら、この圏内の図書館から図書貸出しを直接受けることができるというものである。借りる人は、それ

ると、相互利用の協定締結に至るまでの最大の課題は、実施後に予想される各市町間の利用のアンバランスとそれに伴う損得感情をどう乗り越えるかにあつたという。この地域には、広域行政圏での協調の歴史があり、その利点を背景に、七か条分の協定書内容を決めるまで、二十回

実務研修会（南部会場）

京都ライトハウス点字図書館

二月十九日、東宇治コニティセンターオンライン講演会にて、藤井千尋氏の「前尼崎市立中央図書館長」、サービスを考える」と題する講演がありました。そこからはじめようーーの講演がありま

相互利用の実施による最大のメリツトは、利用者が市域や市境を意識することなく、一番最短距離の図書館を利用できることであるとのこと。長期的な視点でみると、相互利用が、相互協力とともに、図書館間協力のもう一つの柱となる可能性をみた講演であった。

※阪神間の相互利用については、『みんなの図書館』九一年七月号、『図書館雑誌』九一年十月号に詳しい小記事あり。

えないで、「さあ、一步を」とやさしく後ろから手を添えて頂いている、そんな風に思いました。

だから、実務研修会には初参加で、これまでのことはよく分かりませんが、①出来ればお話の時間をもう少し短くして頂いて、残った時間で学んだことをより深め、各館それぞれ事情が違うとはいえ、一步を踏み出すための道筋が見えてくるような

討論が出来れば良かったのにと思いましたし、②その為机の並べ方もお互いの顔が見えるようにコの字型に並べるとか、工夫をして頂ければと思った次第です。

井手町図書館  
成林

尼崎市立中央図書館で積極的に障害者サービスに取り組んでこられた藤井先生のお話を伺い、障害者サービスとは、たとえ全体から見て利用率が低くても、手が回らないではないで済まされない必須のものであると癌

いう先生のお話に、他館種の図書館間の相互協力の重要性も感じました。また、資料の提供という図書館の原点に立ち返れば、それらは積極的に取り組むべき身近な事でもあります。とはいって、あらゆるサービスを極めると言つても、人的・予算的な面から、なかなかキメ細かにとはいかないのが実情です。かといってそれ展は望めません。ハード面はどんど

総ての人に、図書館をより便利に身近に利用してもらえるようにする為に開拓していくべき課題は尽きませんが、「いつでもどこでも誰でも何でも」の精神に則れば、それらの課題を解決していくのは当然の事と言えます。しかし、公共図書館は法的にも健常者主体に考えられており、点字図書館に比べ、音訳に関する著作権の問題等、サービスを行うにあたり規制される点があります。しかし、それらのハードルも点字図書館と連携をとれば越えられるものだと

感しました。また、利用が少ない事も、単に奉仕人口が少ないからだけではなく、障害を持つ人にとって、図書館を利用する事に対し、気遣れを感じさせる点やイメージがある事の現われであるように思いました。だから、それらの人々に、障害があるても図書館を利用する術がある事をもっとアピールしていく必要がありります。

ん進歩していくし、この先技術的には資料の提供方法はますます多様化していくと思います。しかし、それに伴う図書館員の心意気を行政に理解してもらわなければ、技術的にサービスが追いつかず、本末転倒になってしまいます。

自分に出来る事はいくらもありませんが、「知る」という万人の権利意識し、日々の業務にあたる事も大切だと思いました。障害を持つ人にとてもごく気軽に図書館を利用出来るようになる事が、ひいてはより暮らしやすい社会への足がかりになるかもしれません。

レファレンスについての研修があれば、ぜひ参加したいなと思つていましたところ、この話を聞き、しかも、地元、京都での開催という事で、この日は、私が担当しているお楽しみ

## 近畿公共図書館協議会 参考事務部門研究集会

京都市西京図書館

馬場ひろみ

一月二十二日に、京都市生涯学習総合センター（京都アスニー）において「レファレンスワーク—今日から明日へ—」を開催されました。講演は国立民族学博物館教授・副館長杉田繁治氏の「図書館から情報館へ—デジタル化への動き—」。



図書館、博物館、美術館などの区別がなくなるだろうと話されていましたが、施設に行かなくても疑似体験

で、機械化が進んでいるんだなと痛感いたしました。また、近い将来、立體物、音などすべてコンピュータを使ってデジタル化されていると聞いて少し驚き、改めて、様々な分野

博物館の裏側の話を初めて聞いたのですが、文章、数値を始め、写真、立体物、音などすべてコンピュータを使ってデジタル化されると聞

生の頃に何度か行った万博会場の国立民族学博物館だと気付き、往時を懐かしく思いながら話を聞かせていただきました。

午前中の講演では、外観や館内のス

ライドを見せてもらった時には、物館の副館長がOHPを使用して説明されたのですが、外観や館内のス

ライドを見せてもらつた時には、物館の副館長がOHPを使用して説明されたのですが、外観や館内のス

ライドを見せてもらつた時には、物館の副館長がOHPを使用して説明されたのですが、外観や館内のス

できるバーチャルリアリティについては理解できますが、各々の館は機能や役割が異なるわけですから、果たして、そんな時代が来るのでしょうか。少し疑問に思いました。

午後からの事例発表では、利用者の要求は増える一方であるが職員の増員は少なく余裕のない状態である事、また、著作権やファックスについての議題がでていたのですが、規模は違うけれども、どの図書館でも同じ悩みを抱えているんだと改めて感じました。著作権は、図書館についてまわる大事な問題であり、私はしては、もう少し、この問題について論議を深めてほしかったのですが、残念ながら時間が来てしました。

最後になりましたが、他府県の状況や同じ立場での人達の話が聞ける研修を京都でもより多く開催される事を期待しています。

## 近畿公共図書館協議会 奉仕部門研究集会

二月十三日に、大阪市立中央図書館において「より早くより確実に—相互通借の現場からの最新状況—」を開催されました。講演は国立国会図書館専門資料部主任司書田村貴代子氏の「総合目録ネットワークと電子図書館」。

三田市のパソコン通信では午前三時から六時のパックアップ時間でのぞき、終日運用されていて、深夜や休館日の利用が多いとのことであった。三市の相互貸借では、週一回連絡車が運行されていて、一回ずつ各市が車を出して資料を運搬しておられる。府立図書館よりも、三市間で借りるほうが多い図書館もあった。

ワーク②三田市立図書館のパソコン通信サービス③吹田市、箕面市、豊中市間の相互貸借の現状について、という三つの発表があった。国会図書館の総合目録は当面、都道府県立図書館と政令指定都市の図書館をつなぎ、将来的には市町村立図書館もつなぐという構想で計画が進められている。気になった点は「トットちゃん」という検索キーで検索の実例を見せてもらつたが、なかつたことである。所蔵資料でも「窓ぎわのトットちゃん」が出てこない。

検索の仕方で「該当なし」になる可能性のある電子図書館のこわい一面を見た気がした。



十二月一日から十九日間、東京上野の国立教育会館社会教育研修所で開催された、図書館司書専門講座に参加しました。行く前は、不安ばかり（それもそのはず知らないところへ、知らない人たちと一緒に行くんですねから）。不安の固まりが服を着て歩いていたみたいで、なんか落ち着きませんでした。参加者は、総勢八十六名。でも、行ってみると持ち前の「アッケラ性格」と「度胸」で、すぐになじんでいました。

本題の講義内容は、さすが十九日間というだけあって、みっちりでした。

近公研修会が主催してい

## 平成九年度

### 図書館司書専門講座に参加して

京田辺市立中央図書館 中川新也

を凝縮したようなものでした。

初めに、生涯学習の中での図書館の役割について、図書館は、生涯学習の第一歩であり、誰もが自由に利用できる施設でなければならない。

また、最近、急速に発展してきたコンピュータ、インターネットの情報の多様化、電子資料と活字本、図書の選定の大切さ、利用の多い図書資料ばかり購入していくのだろうか、等々。「生涯学習の理念」から始まり、「児童サービスの理解」・「レファレンスサービスの理解」・「図書館のネットワーク」・「障害者

サービス」・「図書館経営の現状と課題」・「図書館資料の選択と組織化」等々の聴講や、「演習」（図書館サービス計画の企画・立案やレファレンス検索の実際）等が組み込まれていて有意義な内容でした。

また、現地研修として、東京都立中央図書館・国立国会図書館・千葉県浦安市立中央図書館、市川市立中央図書館等の先進地の図書館も見学でき、我が図書館でもしなければならない課題が大変多いことにびっくり。

中級研修とはいうものの、やはり基本が大切。

図書館を運営していくための図書

館サービスのあり方、職員の重要性が重んじられる事を再確認しました。

図書館員は、言うまでもなく専門職であり、一定（最低）の技術、知識、教養を国が認定するだけのもの

であります。だから、資格を手にすれば終わりではありません。絶えず学習して向上していかなければ、

一生の宝物だと思います。

共同生活をするのがこんなに楽しいものなかつと有意義な十九日間の研修会でした。



利用者と接していかなければなりません……。

この講座の中で最も学習できたのは、レファレンス業務の難しさでした。実際に問題を与えられ、限られた時間内に解決を、また、宿題が出来て、自ら地図を片手に図書館を探し、問題解決をしなければなりません。もっぱら夕刻と土・日曜日は、図書館巡りに明け暮れました。やつと見つけた図書館に資料がなかつた時などは最悪。でも、せっかく来たのだからと、いろいろ見学させていただきました。困難な中にも新たな発見と、いろいろな考え方ができ、ちょっとでも力がついたような気がします。

何といっても、一般研修と違うところは、寮生活。同じ釜の飯を食つて、他府県の図書館員と楽しい交流ができたこと。これは、自分にとつて一生の宝物だと思います。

共に生活をするのがこんなに楽しいものなかつと有意義な十九日間の研修会でした。

今回参加した二月五日の研修テーマは、「図書館をめぐる新しい動き」と題して行われました。

まず最初の講義テーマは、奈良教育大学教授 藤原公昭氏の「情報ネットワーク動向、インターネットのイソパクト」でした。インターネットの定義から始まり、爆発的な普及の現状説明がありました。もはやインターネットは、マニアから一般の人へそして女性の利用が、二十%を超えたこと。また、大学・職場から家庭へ普及し、利用者の八十分が毎日使っていると言う調査報告が紹介されました。こうした状況の中でインターネットは、電子メールや情報検索等の使い方から、日々新たな使い方が考え出されています。反面、情報報道社会の影を十分知った上で活用する事が大切である。パソコンの普及によりインターネットが、図書館の情報発信手段として主流になるで

二月三日から四日間奈良県文化会館で開催されました。三日は研究協議会で「いま、図書館に求められるもの」－広域利用、相互貸借を中心にして、「社会の変化と図書館・図書館員」、『図書館をめぐる新しい動き』、「レファレンスの多様化に応えるために』をテーマに研修会が行われました。

## 近畿地区公共図書館 研修・研究協議会

向日市立図書館 鎌田高明

あろうとの事でした。

次の講義テーマは、奈良県教育委員会の「奈良県の図書館情報ネットワーク構想」でした。奈良県立図書館の情報システムについて基本構想の説明がありました。それは、情報資源の共有・進化する図書館・知的交流の舞台という三つの理念のもとにネットワークを基礎とした図書館を考えているとの事でした。県立図書館では、平成九年二月からインターネットで蔵書目録を公開している。今後新しい情報サービスについて紹介がありました。

以上の講義で感じたことは、パソコンの普及によってインターネットは、急速に家庭へと入ってきました。利用者にとって家庭が、仮想の図書館となるのではないか。図書館は、インターネットを介して自館の情報を発信し、図書館のネットワークを構築することによって、膨大な情報を共有することが出来ます。利用者からは、今以上に館種や地域を越えないでしようか。図書館員は、利用者のニーズに合った情報を正確に見極める判断力が必要と思います。当日は、その他に「ノーマライゼーション」と「多文化社会図書館サービス」のテーマ講義がありました。

#### 京都市向島図書館

##### 羽田野聰子

二月三日の研究協議会に参加しました。

まず最初は大谷高校教諭でヒマラヤ研究家である薬師義美先生の講演

「ヒマラヤ文献ができるまで」で、登山のお話や、実際の資料をまじえながらの文献作成のお話は、図書館における資料整理にもつながるものがあり、大変興味深く聞かせて頂きました。

午後からは「文部省の公立図書館振興方策」についての説明の後に、事例発表①「亀岡市図書館情報ネットワークシステム」について、亀岡市立図書館高向館長より、行政のバッ

クアップを得ながら、学校図書館や大学図書館、美山町立図書館などと館種を越えたネットワークを築いたところです。舞鶴市立図書館の建物（赤レンガ造りの建物）で「ぐりとぐら」や「そらいろのたね」などの挿絵で有名な絵本画家の山脇百合子さんを迎えて、図書館講演会が開催されました。

山脇さんが入洛されたのは数年ぶり、もちろん、舞鶴方面は初めての訪問でした。そのためか、当日前までに市内のみならず、市外の方からも講演会についての問い合わせがあり、その反響に驚きました。

事例発表②では「中河内（東大阪市・八尾市・柏原市）の広域貸出システム」について、八尾市立山本図書館関館長から、大阪府内の中河内地域の相互利用体制が出来るまでの経過とシステムの現状や問題点などを報告されました。この事から図書館同士の協力体制は勿論、行政との協力体制も今後必要になることを実感しました。

事例報告③では、「大阪府立図書館の対市町村サービス」について脇谷直博氏から、対市町村サービスの現状や課題、そしてパソコン通信による相互貸借の申し込みの方法などが報告されました。

今回の研究協議会に参加させて頂きました。

#### 舞鶴市立図書館講演会

いて、利用者の立場にたつた図書館サービスの在り方や、図書館同士・館種を越えた協力体制の必要性などを改めて考えさせられることも多く、私にとって大変実りの多い研修となりました。

キャラクター作りのために、動物園巡りなどを繰り返して、試行錯誤された苦労話など、子供や動物に寄せた優しい、いたわりの気持ちも込めて、一時間半にわたり、絵本の絵そのままの、ほのぼのとした語り口で講演されました。

講演のあと、サイン会も行われ、丁寧に一つ一つサインをされていました。多くの方が、サインの書かれ方など抱えて、満足気な表情で帰つて行かれたのが印象的でした。



## 「府立図書館対市町村サービス休止中の相互協力業務実態アンケート」集計について

相互協力委員会が実施しました標記のアンケートについては、年末年始の多忙ななか、各館のご協力を得て、ようやく取りまとめることができ配布致しました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

府立図書館のサービス休止中の相互貸借冊数は「少なくなった」と回答された館が二十八館、「かわらない」は二十三館です。

府立図書館「全面休止」のため、相互協力業務を「中止」とされた館もありました。連絡協力車が停止し、搬送手段がないため利用者が自肅された例がいくつかの館から報告されています。

期間中の提供不能冊数は「多くなった」十四館、「少なかつた」十三館、「かわらない」二十九館となっていましたが、「少なかつた」「かわらない」と回答された館でも調査の先送りなどで提供までの時間は長くなっています。

### ○相互協力委員会

研修研究委員会では、前委員会からの引き継ぎに応え、「どの館のどの職員も、いつでも参加でき、いつ

かは役に立つ内容の研修」を目標に、針で、各委員の持味を發揮していただきました。

平成八年度は先に研修日程が入っており、研修会場の関係ですべての研修が二・三月に集中してしまいました。

平成九年度はこの反省にたって一泊研修を九月に、一日研修を十一月と本年二月に行い、参加者から好評を得ました。

今後も会場が片寄らず、年度末に集中しないようにお願いします。

### 第4回理事会報告

平成10年2月27日(金)昨年4月に開館した京都市醍醐中央図書館で第4回理事会が開催されました。

事務局からは、平成9年度会務報告(案)と平成9年度収支決算(見込)、研修研究・相互協力・広報の各専門委員会委員長から事業報告がありました。

また、平成10・11年度役員の選出及び各専門委員会委員の選出について協議を行い、理事定数の改正(会則改正)を理事会での決定事項として次年度へ申し送りすることとし、次期理事の決定・報告を3月末までに、各専門委員会委員の選出を4月に行い、事務局あてに報告することになりました。

なお、平成10年度定期総会は5月29日(金)を予定日とし、準備を進めることとなりました。

資料の搬送方法としては郵送とともに、職員による搬送が多くの館で実施されました。休日利用や出勤の途中で立ち寄るなど「ボランティア」的努力が報告されています。利用者の要望と予算などの制約の狭間で苦労された様子が浮かび上がっています。

ご一読いただき、今後の相互協力

充実の一助になれば幸いです。

(相互協力委員会)

## 専門委員会ニュース

の住民なら閑域いずれの図書館(計十二館)にも登録・利用でき、また阪神広域行政圈協議会の事業として、七市一町をメール便(連絡車)が週一回巡回し相互利用に役立っている

様子が紹介されました。メール便の運営方法など実際的な質問が活発に出されました。

「府立図書館対市町村サービス休止中の相互協力業務実態アンケート」の報告のあと、討議ではおもにW A N T E D 方法の改善策や各館での処理方法について意見交換がおこなわれました

●広報委員会

本年度第三回広報委員会を一月二十一日に舞鶴市立西図書館で開催し、「会報」第四五号を六ページだてとすること、及びその編集方針と記事

オリンピックで盛り上がりをもたらす「うちは、いつの間にやら春がやってきたような」

そして早いもので、今回の四五号で広報委員として二年間の任期を終え次号からは新メンバーにバトンタッチということになります。委員一同ホットなニュースをお伝えすべく奮闘しましたが、いかがだったでしょうか。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

### 編集子

分担を決定しました。

二年任期で本会報の編集が最後となる委員長始め各広報委員は、活発な意見を出し合い、次期委員への引き継ぎ事項の確認も行いました。

尼崎市立中央図書館長藤原英一郎氏(阪岡理事)に「阪神地区公共図書館の相互協力について」と題して講演をいただきました。七市一町